

(中間C)

評価分科会総合評価

研究課題名：顕著現象の機構解明に関する解析的・統計的研究

評価分科会（予報分野）

分科会長：田中正之

委員：岩崎俊樹、木村富士男、佐藤 薫、藤吉康志

評価年月日：平成24年1月13日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 ☒ 継続 ☐ 中止
(2) 修正の必要の有無 ☐ 修正の必要あり ☒ 修正の必要なし

2. 総合所見

集中豪雨、竜巻、異常高温等の顕著現象は、市民生活への影響もきわめて大きいことから、顕著現象の実態や予測に関する的確な情報を提供することは重要な課題であり、社会的な意義がますます高まりつつある研究テーマである。この研究は、現象を整理することから出発しているところに特徴があり、他の研究が特定の技術を進化させることを目指しているのと対照的である。顕著現象の事例解析の積み重ねることは、個々事例の発生要因を整理するだけでなく、現象の本質を見極めるうえで重要であり、また、その発展として統計的性質を明確化するという試みは大変興味深いものである。

研究計画は、副課題2と3がやや作業が遅れているものの、おおむね順調に進捗しており、所期の目的が達成されるものと期待できる。また、モデル出力を利用したり累計化したりすることにより、難しい課題に挑んでいる。なかでも、非スーパーセルの竜巻に注目することは評価できる。

提案通り計画を進めることが適当と判断されるが、各副課題間および所内の他の関連研究との連携に一層留意することが望まれる。また、統計的性質を明確化するという試みに関しては、まだ大まかな特徴を捉える段階ではあるが、関連する要素を複合的に解析するなどの研究展開を期待したい。なお、都市豪雨の問題については誤解されやすいので、注意しつつ情報を発信していただきたい。